

キャリアコンサルティングには、積極技法と呼ばれるものがある。キャリアコンサルタント（以下「CCC」と記す）が能動的に関わって、クライアント（支援対象者。以下「CL」と記す）の問題解決行動を促す技法を指す。積極技法はともすると「傾聴」もしくはCLとの「信頼関係構築」と対立的に語られがちだ。しかし、CCが現場で積極技法を採るときには、いつも以上に傾聴や信頼関係構築に留意するし、また積極技法によってCLに気付きが生まれ問題が解決に向かうことで信頼関係が高まるというのが、私の現場感覚である。今回は、私の担当している社会福祉事務所での就労支援の事例（守秘義務上いくつかの事例に基づく架空事例）を示すことで、積極技法の意味を感じていただければと思う。

ナビゲーター

決行動を促す技法を指す。積極技法はともすると「傾聴」もしくはCLとの「信頼関係構築」と対立的に語られがちだ。しかし、CCが現場で積極技法を採るときには、いつも以上に傾聴や信頼関係構築に留意するし、また積極技法によってCLに気付きが生まれ問題が解決に向かうことで信頼関係が高まるというのが、私の現場感覚である。今回は、私の担当している社会福祉事務所での就労支援の事例（守秘義務上いくつかの事例に基づく架空事例）を示すことで、積極技法の意味を感じていただければと思う。

理論と実践 産業カウンセリング 私の実践

◆ 14

築に留意するし、また積極技法によってCLに気付きが生まれ問題が解決に向かうことで信頼関係が高まるというのが、私の現場感覚である。今回は、私の担当している社会福祉事務所での就労支援の事例（守秘義務上いくつかの事例に基づく架空事例）を示すことで、積極技法の意味を感じていただければと思う。

Fさん（34歳、男性）。最初の月4回ほどの面接は主と

「積極技法」で支援

してFさんの状況や気持ち、価値観を傾聴していくことが主となった。長兄の暴力的支配下にある母子家庭で育ち、兄の支配を嫌って30歳のとき一人暮らしを始めたが、仕事が長続きせず、繰り返し生活保護を受けてきた。Fさんには職場での体験を「否定的」に「一般化」して捉え、その結果就労への条件を狭める傾向が見られた。

た商品をピックアップしていく業務）の仕事に応募した。その採用面接で担当者からピッキングに限らず仕事全般に關ってほしいと要望された。Fさんはちゅうちょした。Fさんには以前の職場で自分だけが複数の仕事を頼まれ忙しすぎて大変だった経験があり、今度もそうなるに違いな

いと云う。Fさんの気持ちに共感的理解を示しながら、私は「Fさんだけが複数の仕事を頼まれたのは、どういうことだったと思いますか？」と質問した。これはFさんに客観的視点で会社側の意図に気づいてもらうための積極技法として

の質問である。Fさんはしばらくの沈黙の後答えた。「僕ならできると思われたということですかねえ？」。Fさんはこれを機に、管理者側、採

信頼があるからこそ本質に迫る

用者側の意図や評価、自分の経験や能力に気づき始めたの

である。私はそうしたFさん

の仕事を頼ま

【日本産業カウンセラー協会
会中部支部講師 渡辺英明】
（火曜日掲載）

